

研究概要の公開原稿

研究課題名：膵腺房細胞癌の背景と切除不能・再発症例に対する化学療法に関する多施設後ろ向き研究

研究対象：

1990年1月以降に四国がんセンターにおいて膵腺房細胞癌と診断された方々の診療録を対象とします。

研究の概要：

膵腺房細胞癌は膵がん全体の0.2~1.0%とされる稀ながんです。病気があまり進んでいない場合は、手術で病気のある部位だけを治療します。病気が広がり、全身の治療が必要な場合は化学療法（抗がん剤による治療）が行われます。けれども、化学療法のうちどの治療法がもっとも効果が高いのかについては結論が出ていないところです。本研究においては、膵腺房細胞癌に対する化学療法がどのくらい腫瘍を縮小させるのか、どの治療法がもっとも腫瘍を縮小させる効果が高いのかを過去の診療録を調査します。

研究の意義：

膵腺房細胞癌の患者さんにおいて、化学療法のうちどの治療法がもっとも効果が高いのかについては、海外・国内からのこれまでの報告では結論がでていません。稀ながんですので多くの施設から患者さんのデータを集めることが必要になります。この研究は、膵腺房細胞癌に対する化学療法の効果を調べることで、もっとも効果の高い治療法を選択する際に参考となる大変意義のある研究になると考えております。将来的には、この研究の結果が膵腺房細胞癌患者さんのよりよい治療に結びつくようになると考えております。

目的：

本研究は、膵腺房細胞癌患者さんに化学療法がどのくらい効果があったか、最も効果が高いと考えられる治療法などを調べることを目的としています。

方法：

本研究は日本全国の膵がん治療の専門病院やがん診療拠点病院を中心に資料となるデータ（診療情報）を研究事務局に収集する形式で行われ、国立がん研究センター東病院の医師が研究事務局を担当しています。四国がんセンターでは1990年1月1日以降に膵腺房細胞癌と診断された患者さんの診療録より、化学

療法の治療内容についての必要な情報を収集します。情報収集の作業は医師が行います。この作業で収集した情報を通じて膵腺房細胞癌における化学療法の治療内容を検証します。

個人情報保護に関する配慮：

閲覧する診療録には個人情報が含まれますが、患者さん個人が特定されないやり方で情報を収集します。対象となる患者さんの識別は本研究専用で別途割り振られた研究番号を使って管理し、個人情報が院外に出ることはありません。患者さん等からのご希望があれば、その方の診療録は研究に利用しないようにしますので、いつでも次の連絡先まで申して出てください。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒791-0280 愛媛県松山市南梅本町甲 160

独立行政法人国立病院機構四国がんセンター 消化器内科 浅木彰則、上杉和寛

FAX 089-999-1100 / TEL 089-999-1111